



旺なつき



中村信夫



新井純



増山浩一



小沢俊明



矢野晴彦

躍動する時代と人間群像！構想十年。女の系譜を描いて絶賛！
『女傑』は岡部演劇の傑作です。



岡夏海

あらすじ

この『女傑』の舞台は幕末の長崎である。幕末という、とてつもない時代。うねりの中心にあった天領長崎で「勤王の女傑」といわれた大浦お慶。そのお慶を「土佐の姉しゃまによう似とる」と思慕した坂本龍馬。二人の踊るようなロマンスを芯に据えて、異国情緒溢れる長崎の風物をバックに、時代ゆえ「女だてらに」と眉を潜められた女の一生の物語である。龍馬も、これまでの坂本龍馬とはひと味違った龍馬になります。お慶に、女の意地と誇りを賭けて闘いを挑む「丸山遊廓」の青柳、貿易商の妻お静。安政六年、お慶は単身上海まで茶の売り込みに駆け回った。「女的身で密航」。お慶の懐には短銃がねじ込まれていた。後に龍馬にプレゼントする短銃である。お慶は貿易商で財を築いた。色白で恰幅のいいお慶の立ち居振る舞いは、まさしく『女傑』であった。龍馬は、屈託なく笑い、周囲を煙に巻きながらも確実に人を虜にしていく男であった。「男がなにかにぶつかって、それを押し倒して進んでいく姿ほど気持ちのよかものはなか」。白袴で長崎を闊歩する勤王の志士たち。お慶と龍馬は運命に翻弄されながらも運命からは逃げなかった。時代は激動の時代だった。「お慶さん、おもしろかったぜよ」。寺田屋で暗殺された龍馬はそう呟いて息絶えた。



紺野康文



佐伯和来



服部博行



平野稔

●スタッフ＝美術 孫福剛久/音楽 羽柴昂/照明 西尾憲一/
音響 藤居俊夫/殺陣 太賀武志/衣装 山本英司（東宝コスチューム）/
かつら作指導 山田かつら/写真 山本悟正/舞監 赤崎ひかる/
舞監補佐 山田和彦/イラスト 宮嶋龍/振付 坂東久三之助/
大道具 夢工房/題字 岡部耕大/制作 岡部企画



小須田康人



岡政樹



萩野道子



仙頭美峯



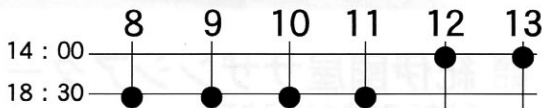
小嶋章



望月大助

- 前売開始日10月8日（木）
- 入場料 5,000円（税込）高校生以下 3,000円（税込）
全席指定
- 前売・予約＝チケットぴあ 03-5237-9988
チケットセゾン 03-3250-9999
紀伊國屋インフォメーション（店頭販売のみ）
[新宿東口 紀伊國屋書店 新宿本店1F]
- 予約・お問合せ＝岡部企画 044-933-9754

12月8日（火）～13日（日）



開場は開演の30分前です。
受付は開演の1時間前です。